

全国の強者に肩を並べる大健闘 菅家賢心君 準優勝！

日本空手道神居塾只見同好会の菅家賢心君（只見小2年）が、「武将杯 初心クラス小学2年生男女混合」で、準優勝を収めました。

武将杯は今回が初開催ですが、全国から参加者が集まり、全クラスで115団体1285人が参加する大きな大会です。初心クラス小学2年生男女混合は、33人が参加し、トーナメント形式で試合が進められました。

賢心君は「勝ちたい気持ちがあったので、試合中はあまり緊張しませんでした。決勝戦はとても強い相手で、負けてしまったのが悔しいです。昇級審査がすぐあるので、それを頑張って、もっと強くなりたいです」と決意を話しました。

神居塾只見同好会に興味がある方はぜひご連絡ください。

TEL 090-8842-5770（責任者：三瓶）



▲賢心君は空手を始めて、1年不足だそうですが、神居塾では経験年数に関わらず、挑戦を後押ししてくれます

只見ボランティアしゃくなげ会の活動に感謝状 JR東日本から感謝状が贈られました



▲感謝状を受けたしゃくなげ会の皆さん

只見ボランティアしゃくなげ会に東日本旅客鉄道株式会社から感謝状が贈られました。

この感謝状は、長年にわたりJR只見駅の環境整備（花壇やプランター整備等）を行ってきたことが評され、贈られました。

しゃくなげ会の皆さんは、只見線の応援と利用者の方をお出迎えする気持ちを込めて環境整備を続けられているそうです。

メリークリスマス！ 町内各地でクリスマスイベント開催

町内各地でクリスマスイベントが行われました。

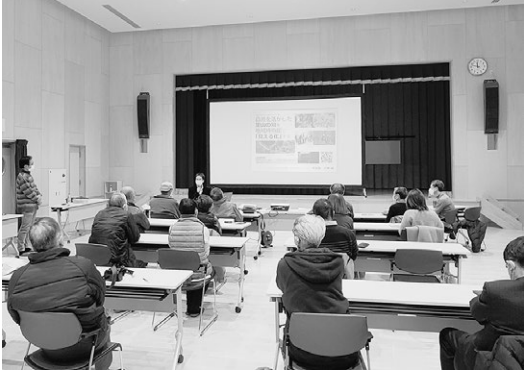
只見地区では只見高校生、朝日地区ではALTのケイトリン先生、明和地区では明和青年団、かるがもクラブでは、民生児童委員の渡部和子さんがサンタクロースとなって、子どもたちにプレゼントを渡しました。



▲サンタさんが、たくさん子どもたちにプレゼントと夢を届けてくれました（右：かるがもクラブ 左：朝日振興センター）

伝統知を持続可能な地域づくりに生かす

ブナセンター講座「自然を活かした里山の知を地域博物館で『見える化』する」開催



▲只見町の「伝統知」を残すこと、生かすことの大切さを話す小林氏

ブナセンター講座「自然を活かした里山の知を地域博物館で『見える化』する」が12月17日に開かれました。

講座では、十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロの学芸員を務める小林誠氏を講師にお招きし、里山の暮らしや、自然との共生の中で育まれた伝統的な知識・知恵である「伝統知」を地域博物館で『見える化』するための具体例を学びました。

小林氏は「地域づくりは地域残しから始めることが重要です。町内外問わずみんなに必要とされ続ける地域を目指すことが地域の持続的な発展につながっていきます」と話しました。

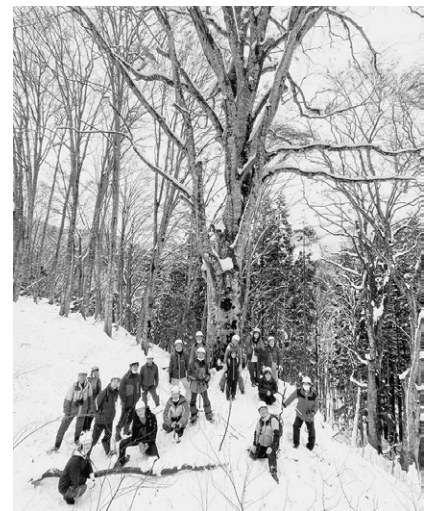
冬の只見町の自然に触れる

ブナセンター観察会「冬のブナ林観察会」開催

ブナセンター観察会「冬のブナ林観察会」が、12月17日に深沢地区で開催され、子どもから大人まで12人が参加しました。

参加者は、約30cmの積雪の中を長靴やスノーシュー、かんじきを履き、雪上のハイキングを楽しみながら、観察対象のブナの巨木を目指しました。

観察会では、古くからお香として使われてきたカツラやシナ皮として活用されてきたオオバボダイジュについて、地元参加者の方による解説で、只見町の「伝統知」を学ぶことができました。



▲ブナの巨木と記念撮影

心に響く素敵な歌声

東京混声合唱団「只見高校クリスマスコンサート」開催

「只見高校クリスマスコンサート」が12月1日に開催され、只見高校校歌を含む17曲が、東京混声合唱団の演奏で披露されました。



▲素敵な演奏が高校の体育館中に響き渡りました

東京混声合唱団の小林音葉さんは、曲に込められた思い等を紹介しながら、「クリスマスコンサートということで、教会で聞いているかのような気持ちで聞いてほしい」と話しました。

演奏を聞いた生徒は「歌声だけでなく表情や体まで使って曲が表現されていて、とても楽しい気分で聞くことができました」と感想を話しました。

演奏に来校された東京混声合唱団9人の内の3人は、昨年の選抜高校野球大会で只見高校の試合時に甲子園球場で流された音源の録音にも参加されていたそうです。